

新生ロビン・フッド

- 1 さあみなさん お聞きください
ヘイダウン ダウン ダウン
わたしが今からお話するのは
森の中の物語
礼節正しく勇敢なロビン・フッドの物語
- 2 「いま何時だ」とロビン・フッド
「ちょうど昼時にござる」とリトル・ジョン
「では緑の森へ行くとするか
蓄えが底をついたゆえ」
- 3 ロビンが一人で森を歩いていると
それはちょうど真昼時のこと
美しい若者と出会いました
若者は道を歩いてやってきました
- 4 「このダブレットは絹製だ」若者は言いました
若者の靴下は深紅に光っておりました
若者は歩きつづけます
ロビンの知らない若者でした
- 5 若者が進む道の先で
鹿がひと群れ草を食んでおりました
「あの中で一番よい鹿をいただこう
なに 手間もかかるまい」
- 6 見知らぬ若者はいして骨を折ることもなく
矢を一本選び抜くと
ゆうに四十ヤードは離れたところから
一番よい雄鹿を仕留めました
- 7 「お見事 お見事」とロビン・フッド
「見事な間合い
もしもお前に異存がなければ
わしのもとでヨーマンにならぬか」
- 8 「とつとと立ち去れ」と見知らぬ若者
「ぐずぐずするな
さもなくばこの拳が
貴様をぶちのめすぞ」
- 9 「そううまくはゆくまいよ」とロビン・フッド
「たとえ今は一人でも

ひとたびわしが角笛を吹けば
すぐに手下どもが飛んでくる」

10 「角笛吹いても無駄なこと」と見知らぬ若者

「じたばたしても無駄なこと
俺が太刀を引き抜けば
笛のひと吹き切り裂くこととて容易なこと」

11 そこでロビンは矢を一本選び

相手を射止める自信の構え
見知らぬ若者もまたよい矢を一本選び
今にもロビンを射る構え

12 「その手をおさめよ」とロビン・フッド

「その矢を射っても無駄なこと
互いが互いを狙って射てば
どちらかが命を落とすが必定

13 「かわりに剣と楯とで勝負しよう
むこうの木の下で」

「こちらとて命は惜しい」と見知らぬ若者
「その勝負受けて立とう」

14 ロビンが若者に打ちかかり

不意をつかれた若者は言いました
「お返しを受けないうちに
尻尾しっぽを巻いて退散せよ」

15 見知らぬ若者は太刀を抜き

ロビンの頭に打ちおろしました
ロビンの頭髪かみの一本一本から
鮮血が滴りおちました

16 「もうよい 参った

これほどの腕前とは
教えてくれ お前はいったい何者だ
いったいどこからやってきた」

17 見知らぬ若者は答えました

「教えてやろう
生まれ育ちはマクスフィールド
俺の名前はヤング・ガムウエル

18 「親父の下男を殺した廉かどで

イングランドの森へ逃げてきた
俺の叔父貴を捜すため

人は叔父貴をロビン・フッドと呼んでいる」

19 「お前はロビン・フッドの甥だというのか
ならば争いなどするのでなかった」

「こちらとて命は惜しい」と見知らぬ若者

「俺はロビンの姉の息子」

20 ああ そこで交わされた熱き抱擁

二人の縁者はこうして出会ったのでした
その夏の日二人して歩いていると

リトル・ジョンに出会いました

21 二人がジョンと会ったとき

ジョンはロビンに言いました

「お頭かしら どこに行っておられた
道草でも食っておられたか」

22 「見知らぬ若者に出会ったのだ

手痛くやられてきたところだ」

「それではわしがその若造めの

腕の程を試しましょう」

23 「いやいやジョンよ

それには及ばん

これはわしの姉の息子

わしのたった一人の甥っ子よ

24 「これよりわしのヨーマンだ

お前に次ぐ地位を与えよう

このロビン様と リトル・ジョン

そしてこの若者の名はスカロック

25 「我ら三人はこの北の地で

最も勇敢な無法者となるだろう」

もしもこの後のち ロビンのお話を聞かれたら

それは新しいロビン・フッドの物語